

# 発熱の患者さんへのお願い

当クリニックは泌尿器科専門クリニックです。

- ① 37.5 度以上の発熱
- ② 咳、鼻水などの感冒症状のある方

上記に該当する方は基本的に検査体制も整っていないため、診察をお断りさせていただいています。何卒ご容赦ください。

なお、尿路感染症に伴う発熱を認める場合があります。

その場合、まずはクリニックにご連絡いただき、医師より病状を評価し、尿路感染症による発熱と診断した場合に診察させていただきます。

まずは具体的な症状と疾患について説明させていただきます。

## <具体的な症状>

### ① 発熱

腎盂腎炎が起こると発熱します。それも 38°C を超えるような熱がでます。腎盂腎炎による発熱は治療を開始していても 2-3 日続くことが多いですが、治療が効いていけば少しずつ熱が下がっていきます。夜間の発熱を認め朝には下がっていることが多いですので注意が必要です。

### ② 悪寒、戦慄

悪寒はぞくぞくとする寒気のこと、戦慄は震えることです。つまり悪寒・戦慄は急に寒気がして身体がガタガタ震える、温まろうとして毛布にくるまっても震えがとまらないといった症状です。悪寒や戦慄は高熱の存在を示唆する症状と考えられています。腎盂腎炎は高熱が出ることが多いので発熱の前後で悪寒や戦慄も現れることが多いです

### ③ 側腹部の叩打痛

腎盂腎炎の症状の一つに腎臓の位置にあたる背中部位を叩くと痛みが増すというものがあります。側腹部の叩打痛（こうだつう）として医師の間ではよく知られた症状です。

### ④ 男性特有の尿路感染

排尿症状（頻尿、排尿痛、残尿感など）を伴う発熱をきたしたときには、腎臓や前立腺または精巣上体などに細菌感染をきたしている可能性があります。特に糖尿病、尿路結石、前立腺肥大症など、尿路感染を起こしやすい疾患がもともとある場合には重症化しやすく、ときには命に関わる場合もあります。排尿症状を伴う発熱を認めた場合には、一度は泌尿器科クリニックにお電話にて連絡をお願いします。